

## ミルクトレール使用上の注意

ミルクトレールは既製杭をセメントミルク回転埋設工法で打設する際に、杭頭内部に取り付けておき、打設後に掘りながらミルクトレールを引き上げて抜き取り、空間を確保して斫作業の手間を軽減する商品です。現場作業を安全に遂行し、ミルクトレールの効果を十分に発揮するために下記の内容をご理解の上、ご使用いただきますようお願い致します。

状 況	対策と注意点
<p>A セメントミルクが吹き抜ける杭内部にミルクトレールを取り付けるので、杭が高止まりをしたり、セメントミルクの拭き上げる圧力によりミルクトレールが外れて浮き上がったり、潰れたりする。</p>	<p>①ミルクトレールのカンザシ筋は杭の端板にしっかりと溶接して下さい。 ②杭を沈設する時は出来るだけゆっくりと降ろして下さい。 ③杭長が 12m以下の短い場合・ヤットコが 4m以上と深い場合・セメントミルクの濃度が濃い場合等、ミルクトレールに掛る圧力が大きい場合はミルクトレールと杭内面との隙間により、ミルクトレールが浮き上がったり縦方向に潰れたりします。ミルクトレールが中間部分で横方向に潰れて凹むとその部分がアンカーとなる為、いくら引張っても抜けません。斫作業で取り除いて下さい。</p>
<p>B ミルクトレールの引き抜く金具がなくなっている。</p>	<p>④ユンボで掘る時に杭端板に溶接したミルクトレールの金具を破損しない様に注意して下さい。この金具を破損すると引き抜けなくなるので斫作業が必要になります。</p>
<p>C ミルクトレールを引張ったら金具が破損した。又は引張っても抜けない。</p>	<p>⑤ミルクトレールは杭周固定液（設計強度 0.5 ～ 1N）を引きちぎる様に作られていますが、根固液（20 ～ 25N）は引きちぎる事は出来ませんので杭周固定液と根固液が出来るだけ混ざらない様に注意して下さい。 ミルクトレールを引き上げるのに必要な力は φ300 ～ 600 で 3ton ぐらい φ700 ～ 800 で 5ton ぐらい φ900 ～ 1000 で 7ton ぐらいが必要な場合がありますので、それに応じた重機が必要ですが、それ以上の力で引張っても抜けない場合もありますので安全に充分配慮して作業をお願いいたします。</p>

状 況	対 策 と 注 意 点
<p>C ミルクトレールを引張ったら金具が破損した。又は引張っても抜けない。</p>	<p>⑥金具が 4ヶ所の場合は引張る時に 4ヶ所全部の金具に 6分のシャックルを通して4分以上のワイヤーで真上に引張って下さい。</p> <p>⑦ねじれたワイヤーを使用すると、そのねじれが戻る力が回転力としてミルクトレールの引張金具のフラットバーに掛かり、フラットバーの溶接が外れますので、ねじれの無いワイヤーを使用して下さい。</p> <p>⑧ミルクトレールを杭に取付ける前に商品の芯になっているスリーブボイド管を水で濡らす・凹ます・外に巻いてあるブルーシートを破る等、無い様注意して下さい。又、杭に取付ける時に杭内のノ口等により入らない場合は無理に押し込まない様にして下さい。</p> <p>⑨ミルクトレールを引き上げる時は、下面の縁切りが終わるまでは出来るだけゆっくり真上へ引き上げて下さい。</p>
<p>D ミルクトレールを抜き取ったが、杭の中にセメントミルクのノ口が付着していて、それが硬くてとれない。 杭頭補強筋が入らない。</p>	<p>⑩ミルクトレールは杭の中へ挿入する為、抜いた後に杭の内側にはセメントミルクが必ず残ります。セメントミルクの強度は乾くと増しますのでミルクトレールを抜いたら速やかに取り除く事をお薦めします。</p> <p>⑪ミルクトレールの外側に巻いてあるエアバッグがセメントミルクの圧力や膨張を吸収して変形する為に抜ける様に作られた製品ですので、外側寸法は抜いた後の空間寸法を保障するものではありません。</p> <p>⑫ミルクトレールを抜き取った後に使用する杭頭補強筋のフープリング筋の外径は杭内面との鉄筋のかぶり寸法を十分に確保する為にも、出来るだけ小さくして下さい。</p>

※ミルクトレールを使用しても研作業は必要です。  
研作業やそれに伴う費用負担はご容赦願います。